



2020年5月14日

各 位

会 社 名 株式会社フージャースホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 廣岡 哲也
(コード番号：3284 東証第1部)
問 い 合 せ 先 経 営 企 画 室 長 鳴 神 吉 朗
電 話 番 号 03 - 3287 - 0862

棚卸資産の評価損及び特別損失の計上並びに 2020年3月期通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2020年3月期決算において、戸建事業における棚卸資産の評価損計上及び、バイオマス発電事業を行う当社100%連結対象である匿名組合開発51号の固定資産及び長期前払費用の減損処理による特別損失の計上をするとともに、2019年5月13日に公表いたしました2020年3月期の通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 棚卸資産の評価損計上について

戸建事業において、2017年3月期より、販売エリアを城西・城南エリアに変更し、高価格帯戸建の販売に挑戦してまいりました。しかしながら、首都圏における住宅市況の変化に加え、年明けからの新型コロナウイルス感染拡大に伴う首都圏での外出自粛要請や、雇用情勢への懸念及び株式市況の変化から懸念される消費者心理の冷え込み等を踏まえ、今後の販売予測を保守的に見直した結果、一部棚卸資産の評価損413百万円を計上することといたしました。

なお、こうした戸建事業を取り巻く環境に対応するべく、2020年4月より、グループ内の分譲事業(マンション分譲・戸建分譲)の一層の強化及び効率化を目的とした組織再編を行っております。

2. 特別損失の計上について

バイオマス発電所(神栖)におけるエネルギー事業につきましては、2019年8月8日公表の「ヘルスケア・リート組成方針及び時期並びにバイオマス発電所(神栖)稼働時期変更のお知らせ」のとおり、発電所の稼働時期を未定としておりました。

その後、早期の工事再開および稼働開始を目指しておりましたが、今般の新型コロナウイルス感染拡大による金融環境見通しの不透明さを勘案し、グループ全体の優先順位を再検討した結果、当面の間、事業化は難しいと判断し将来計画を保守的に見直し、同事業における資産計上3,216百万円の固定資産及び長期前払費用の減損処理を行うことといたしました。

3. 業績予想について

(1) 2020年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	92,000	8,500	7,500	4,900	86円03銭
実績値(B)	85,231	6,692	5,513	276	4円86銭
増減額(B-A)	△6,768	△1,807	△1,986	△4,623	—
増減率(%)	△7.4	△21.3	△26.5	△94.3	—
(ご参考) 2019年3月期実績	89,882	9,287	8,478	3,195	55円68銭

(2) 差異の理由

売上高、営業利益及び経常利益においては、上記1の戸建事業の販売鈍化、利益率の低下及び棚卸資産の評価損を計上したことや、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、シニア向けマンションの分譲を行うCCRC事業において、ターゲット顧客であるシニア富裕層の外出自粛に伴う販売の鈍化により、また、親会社株主に帰属する当期純利益においては、上記2の特別損失の計上により、前回発表予想値を大きく下回る結果となりました。

以 上